

ふじみ野市における地域への愛着を構成する要素についての調査と分析

酒井 聡一*

Key Words : 愛着, ふじみ野市, 意識調査分析

1. はじめに

地域の活性化や安全安心の向上, 風景や自然の保全など, 市民が主体となった活動が各地で行われている。ふじみ野市においても様々な活動が展開され, 当大学の環境教育研究センターでは, 市民と協働した無農薬米作り活動やふじみ野市と市民の協働による環境まちづくりなどの環境活動に学生が参加している。また当センターは, 各活動への主体的な参加にとどまらず, センターを中心に地域の中で活動する各種機関の環境活動が連動することを目指している。このような地域で行われている活動へ市民の参加を促すには, 地域の場所や人などに対し「愛着」を感じることが重要である。そこで当センターでは, 地域の魅力等の再認識や発見による地域への愛着・興味等を喚起させる目的で, 市民にリレー形式で聞き取り調査を行い, ふじみ野市内で残したい自然環境や言い伝えのある場所, 「技」を持つ達人・名人等をまとめる「ふじみ野市まちづくりマップ」を作成する活動を開始している。

愛着と地域での活動の関係については, 鈴木・藤井(2008)は, 地域愛着が高い人ほど地域活動に熱心であり, 他者への依存が低い傾向があることを指摘している。また, 槇野・添田・大野(2001)は, 地域情報の獲得により, 居住地への愛着を形成する要因の一部が短期間で変化することを示している。

そこで本研究では, 当センターの活動の場であるふじみ野市に対し市民の愛着を深めることが重要であると考え, 市民がふじみ野市に対して愛着を感じる対象を調査し, 各対象に対して愛着を感じる理由を分類, 愛着を構成する要素を抽出, 分析することにより, 愛着あるまちづくりに必要とされる要件について考察を行う。なお, 本研究では「愛着」を, 「自然・施設な

* 文京学院大学環境教育研究センター

どの場所や活動仲間・近隣住民などの他者との感情的なつながり」とする。

2. 調査概要

本調査は、2010年9月4日に開催された環境教育研究センター、心理臨床・福祉センター「ほつと」、地域連携センターBICSの3センター合同企画の地域交流会「深めよう！！きずな」への参加者を中心に、ふじみ野市を中心に活動している市民活動参加者にアンケート調査を依頼、実施した。本調査では17名から回答が得られ、ふじみ野市在住の15名と、住所は不明だが愛着を感じる場所としてふじみ野市のものを挙げた1名の計16名を分析対象とした。回答者の基本属性を表1に示す。

表 1. 回答者の基本属性

	項目	人数	割合
性別	男性	8	50.0%
	女性	8	50.0%
年代	30代以下	0	0.0%
	40代	1	6.3%
	50代	2	12.5%
	60代	7	43.8%
	70代以上	6	37.5%
移住歴	5～10年	0	0.0%
	11～20年	4	25.0%
	21～30年	2	12.5%
	31～40年	7	43.8%
	41年以上	3	18.8%

本調査での愛着に関する質問への回答は自由記述とし、回答数に制限を設けず複数の回答を記述できるようにした。

3. ふじみ野市における愛着を構成する要素

3. 1 ふじみ野市における愛着を感じる対象

市民がふじみ野市内のどのようなものに愛着を感じているかを理解するために、ふじみ野市の場所やモノ、人など、愛着を感じる対象について質問した。本設問では、「あなたは、現在お住まいの地域のどのような場所・モノ・人などに対して愛着を感じますか？」と質問し、現在も存在しているものだけではなく、過去に存在していたものや歴史も含めて質問した。併せて、その理由についても質問した。愛着を感じる対象をカテゴリに分類（以降、「愛着対象」）した結果を表2に示す。

「自然」に関する場所は7名から11件が挙げられ、特に新河岸川が5件と最も多かった。新河岸川に愛着を感じる理由として、緑や生き物など豊かな自然環境を理由とした回答者が多かったが、この場での思い出や、歴史的な面影・風景も理由に挙げられた。その他、武蔵野の雑木林などの市内で緑がある場所（3件）や桜のある場所（2件）、田んぼや屋敷林があり涼しく快適な場所（1件）が挙げられた。

「施設」については、図書館や公民館分館といった文化施設（2件）、小学校（1件）、通勤や買い物時に利用した商店街通り（1件）などが挙げられ、特定の対象に偏らず、その理由も思い出や施設の良さ、人との交流などの幅広い理由がみられた。

「人とのつながり」が愛着対象だったのは4名であり、活動や趣味を共に行う仲間（2件）や近所の人々（2件）が挙げられた。

「歴史・伝統」を愛着対象として捉えている回答者は少ないが、各回答者から多くの項目が挙げられ、ふじみ野市の伝統産業（5件）、寺院・神社（2件）、埼玉県の文化財に指定されている古墳群（1件）が含まれる。伝統産業には新河岸川での舟運と船問屋の歴史が含まれ、かつてふじみ野市で営まれていた産業の場として新河岸川が注目されていることのあらわれと言えよう。

「自宅周辺」（2件）については、近所の人との交流の思い出、ふじみ野市での生活を開始した生活の場であることなどが愛着を感じる理由であった。

狭い道路やネオンなどの「町並み」も挙げられたが、愛着対象として捉えられている一方で、回答者はより愛着を感じるまちとするために改善が必要なものとしても指摘していた。

表 2. ふじみ野市における愛着対象

愛着対象	内容
自然（7名）	新河岸川（5件）
	緑のある場（3件）
	桜（2件）
	快適な場（1件）
施設（6名）	文化施設（2件）
	小学校（1件）
	通り（1件）
	店舗（1件）
	広場（1件）
人とのつながり（4名）	活動・趣味仲間（2件）
	近隣住民（2件）
歴史・伝統（2名）	伝統産業（5件）
	寺院・神社（2件） ※1
	歴史的な場（1件）
自宅周辺（2名）	自宅周辺（2件）
町並み（1名）	町並み（3件）

全回答者16名中1名は愛着対象がなく、もう1名は記載がなかったため、14名の回答を集計。

※1：他市の寺院・神社が1件挙げられたが、ふじみ野市との境界にあるため集計に含めた。

3. 2 愛着を構成する要素の分析

「自然」、「施設」、「人とのつながり」の順に愛着対象として挙げた回答者が多かったが、例えば「自然」の場合、自然の豊かさによって愛着を感じていたり、心が安らぐことによって愛着を感じていたり、同じ愛着対象に対しても様々な理由が述べられている。そこで、愛着を感じる理由の記述から要素を抽出し、どのような要素によって市民が愛着を感じているか分析する。

例えば、愛着を感じる理由の記述回答が「子どものころによく遊びに来た場所で、そのころの風景が残っており、自然が多く落ちつく場所だから」だった場合、「子どものころによく遊びに来た場所」、「そのころの風景が残っている」、「自然が多い」、「落ちつく場所」を要素として抽出する。さらに抽出した要素をカテゴリに分類（以降、「構成要素」）し、各カテゴリの件数を集計した。なお、1つの愛着理由の記述から同様の構成要素が複数抽出された場合は、重複集計せずに1件と集計した。また、各構成要素が何名から抽出されたかも集計した。その結果を表3に示す。ここで、愛着対象の説明や地域における位置づけなどの歴史的な説明を愛着の理由として記述してある場合は構成要素「歴史性」とした。

表3. 構成要素の分類と構成要素数および抽出人数

構成要素の分類	件数	人数	抽出内容
人との交流	8	8	「趣味の仲間ができた」、「地域の人々の暖かい心がある」など
歴史性	8	2	歴史的説明や地域における位置づけなど
自然環境の良さ	6	5	「緑に囲まれている」、「四季を感じられる」、「そこを通ると涼しい」など
生活体験	5	4	「この地で生活を開始した」、「子どもの成長に伴う思い出」など
心の空間	4	4	「心が安らぐ」、「なくてはならない場所」、「宝物のような場所」など
施設の良さ	3	3	「文化や心を育める場」、「様々な活動で利用されている」など
喪失・変更への懸念	3	3	「現在はあまり見られなくなってきた」など
わが町らしさ	3	1	「わが町らしい」
風景の良さ	2	2	「当時の面影が残っている」、「桜が見られる」など
憧れ	1	1	「そのような生活をしたい」
利便性	1	1	「生活しやすい」

愛着対象は記載されていないものの、愛着の理由が記載されていた回答については集計に含めた。また、愛着の理由が記載されていないものは3件あった。

表3より、構成要素の件数として「人との交流」、「歴史性」、「自然環境の良さ」、「生活体験」の順で多く挙げられた。一方、各構成要素が何名から抽出されたか（表3の「人数」）についてみると、「人との交流」「自然環境の良さ」「生活体験」は件数とほぼ同数であり、特定の回答者だけが挙げた構成要素ではなく、複数の回答者が注目した構成要素であることが読み取れる。「歴史性」については2名から8件抽出されており、特定の回答者が注目した構成要素であると言える。

次に、表3において人数が上位3つとなった「人との交流」「自然環境の良さ」「生活体験」

に関して、これらの構成要素がどの愛着対象への愛着理由から抽出されたものを表4に示す。構成要素「心の空間」も「生活体験」と同数で上位3つに入るが、考察で既往研究と比較する「人との交流」「自然環境の良さ」「生活体験」を対象とする。ここでは、各構成要素がどの愛着対象と関係があるかをみることに目的であるため、1人の回答者から同じ構成要素が複数挙げられていても除外せずに含めた。

表4. 構成要素と愛着対象の関係

構成要素	愛着対象
人との交流	人とのつながり（4件）
	施設（2件）
	自宅周辺（1件）
	記述なし（1件）
自然環境の良さ	自然（6件）
生活体験	施設（2件）
	自宅周辺（2件）
	自然（1件）

構成要素「人との交流」を感じる愛着対象として「人とのつながり」「施設」「自宅周辺」がみられ、「人とのつながり」そのものに対してだけではなく、文化施設や店舗などの「施設」や「自宅周辺」において人との交流がはかれることによって、その対象に愛着を感じるようになっていると考えられる。

構成要素「自然環境の良さ」を感じる愛着対象は「自然」だけであり、他の愛着対象において感じられる構成要素ではないことが読み取れる。

構成要素「生活体験」については、「施設」を利用した思い出や子どもの成長に伴う思い出、その地で生活を開始した「自宅周辺」、新河岸川（「自然」）での思い出など、生活の中で体験を持った場に対して感じる構成要素であり、様々な愛着対象と関連のある構成要素であると考えられる。

3. 3 旧行政区域と愛着対象の関係

ふじみ野市は、平成17年10月に上福岡市と大井町が合併して誕生した市であり5年が経つが、地域住民の愛着対象に旧行政区域が影響を及ぼしているかをみるために、愛着対象の位置と回答者の現住地との関係について分析した。回答者の現住地を旧上福岡市と旧大井町に分類し、各回答者がどちらの旧行政区域にある愛着対象を挙げたかを集計した結果を表5に示す。

表 5. 愛着対象の位置と回答者の現住地との関係

		愛着対象 ^{※2} の場所	
		旧上福岡市	旧大井町
現 回 住 答 地 者	旧上福岡市	15 ※1	1
	旧大井町	1	6

※1：他市の愛着対象が1件挙げられたが、旧上福岡市との境界付近にあるため、旧上福岡市として集計に含めた。

※2：ある回答者は、愛着対象としては1件の記述であったが、内容には具体的な場所が3箇所記述されていたため、それぞれの場所を用いて集計した。

愛着対象の位置を特定できた 23 件中 21 件が、回答者の現住地と同一の旧行政区域のものに対して愛着を感じている傾向がみられる。ふじみ野市が誕生して 5 年が経つが、2 つの行政区域が合併し「ふじみ野市」という 1 つのまちとなった現在、ふじみ野市への愛着を高めるために、他方の旧行政区域への興味や関心を喚起させることが必要であると考える。

4. 愛着を感じるために必要な改善内容

ふじみ野市をより愛着の持てるまちとするためには、どのような改善が必要かを理解するために、改善が必要な対象とその理由について質問した。本設問では、「あなたは、現在お住まいの地域をより愛着を感じるまちとするためには、どのような場所・モノ・人などに対して改善が必要と感じますか？」と質問した。併せて、その理由についても質問した。これらへの記述回答から、より愛着を感じるまちとするために改善が必要な内容をカテゴリに分類した結果を表 6 に示す。

より愛着を感じるまちとするために必要な改善内容として、「町並み改善」が 9 件と最も多く挙げられた（表 3 と同様に、同一回答者による重複を除外しても 5 名と最も多い）。ふじみ野市における愛着対象として「町並み」は 3 件（同一回答者による重複を除外すると 1 名）しか挙げられていないことから、町並みの改善の必要性を市民は感じていると言えよう。

「人と地域のつながりづくり（人と人のつながりも含む）」と「自然の保全・創出」については、構成要素（表 3）でも上位に位置する内容であり、愛着を構成する要素ではあるが、さらなる改善を求めていることが理解される。

その他、複数挙げられた内容として「施設の改善」と「活性化」が挙げられ、「活性化」は町並みの改善にもつながることから、特に「町並み改善」が、ふじみ野市をより愛着を感じるまちとするために必要な改善内容であると考えられる。

表 6. 愛着をより感じさせるために必要な改善内容

改善内容	件数	内容例
町並み改善	9	駅前の店舗構成の改善
		狭い道路の改善
		駅前の景観づくり
人と地域のつながりづくり	4	世代間（子どもと地域住民）交流の再構築
		地域による文化の継承
自然の保全・創出	4	現存する自然の保護
		緑のある公園づくり
施設の改善	3	子どもが自由に遊べる公園への改善
		小学校の暑さ改善（緑のカーテンの利用）
活性化	2	商店街活性化
		空き店舗対策

※2件以上のみ掲載

5. 考察

ふじみ野市における愛着対象として、「自然」に愛着を感じる回答者が最も多く、その他には「施設」や「人とのつながり」なども愛着対象として挙げられた（表2）。特に新河岸川は、直接的な愛着の対象としてだけではなく、かつて新河岸川で営まれていた産業（愛着対象「歴史・伝統」の「伝統産業」）に対しても愛着を持たれており、ふじみ野市を象徴する場の一つと言えよう。

表3より、「人との交流」「自然環境の良さ」「生活体験」「心の空間」が、愛着の構成要素として挙げる回答者の人数が上位だった。これらの構成要素について、大阪府大東市を対象として愛着につながる要因とその構造を分析した中筋・榊原・川口・檀上（2006）の結果と比較して考察する。この研究では「まちへの愛着」を対象としているのに対して本研究では「具体的な対象への愛着」に注目している点や、愛着を感じる理由から抽出された要因（本研究における構成要素）も完全に一致しないものの、その中から共通点や相違点を見定める。ただし、構成要素「心の空間」と比較できる要因がないため、これを除いた「人との交流」「自然環境の良さ」「生活体験」を対象とする。

中筋ら（2006）は、「地域の自然環境が良い」は単独で愛着の要因となることを指摘している。本研究においても、構成要素「自然環境の良さ」を感じる愛着対象は「自然」のみであり（表4）、「自然環境の良さ」は他の愛着対象への関係性は少ないと考えられる。次に、構成要素「生活体験」と「人との交流」についてみると、大阪府大東市では「長年住んでいる」ことによって「生活体験」が積み重なり、行事などへの参加を通して「コミュニケーション」が構築される、という関係を指摘している。本研究では、長年住んでいることを愛着の理由とした意見が

みられなかった。これは「まち」に対しては居住年数や故郷であることが愛着の理由になり得ても、「具体的な場所」に対しては自宅周辺であっても、そこでの「生活体験（構成要素）」が直接的な愛着の理由となっているためと考える。構成要素「人との交流」については、表4より、「施設」や「自宅周辺」、活動仲間・近所の人々などとの「人とのつながり」といった愛着対象から抽出された構成要素であり、活動の場や生活の中での他者とのコミュニケーションが愛着の理由となっていると考えられ、同様の関係がみられた。以上より、ふじみ野市と他市との比較においてほぼ同様の傾向がみられ、構成要素「人との交流」「自然環境の良さ」「生活体験」は、愛着を構成する一般的な要素となり得る可能性が示された。

次に、回答者の現住地と愛着対象の位置との関係分析（表5）では、その多くが回答者の現住地と同一の旧行政区域のものに対して愛着を感じており、合併から5年が経過した現在でも、旧行政区域の影響がみられる傾向が示された。市民参加のセミナーなどでも「他方の旧行政区域のことは詳しくない」との声を聞くこともあり、ふじみ野市という1つのまちへの興味や関心を喚起する仕組みが必要であると考え。最初に述べたように、現在、環境教育研究センターでは、地域の魅力等の再認識や発見による地域への愛着・興味等を喚起させる目的で「ふじみ野市まちづくりマップ」を作成する活動を展開している。本マップが旧行政区域に関わらず、ふじみ野市への興味や関心を喚起させるための手段として期待される。

ふじみ野市をより愛着を感じるまちとするために必要な改善内容を示した表6では「町並み改善」が最も多く、愛着の構成要素でも上位にみられた「人との交流」「自然環境の良さ」と関連する「人と地域のつながりづくり」と「自然の保全・創出」も改善内容として挙げられた。町並みの具体的な改善内容が記述された意見もみられたが、既存の施設を利用した市民のコミュニケーションの場や地域の情報を発信する場などの「人と地域のつながり」を構築できる場を創出することによる町並みの改善が考えられる。また、市民が自然に親しめると同時に次世代への環境教育の場としても利用できるビオトープなど、「自然」を感じると共にその重要性を理解できる場を持つ町並みへの改善も考えられるだろう。このように、人と地域のつながりや自然環境を考慮した町並みへ改善することによって、市民が愛着を感じるまちが形成されていくことが期待される。

6. 今後の展開

回答者は現住地と同じ旧行政区域の対象に対して愛着を感じている傾向がみられ、ふじみ野市というまちへの興味や関心を喚起する仕組みが必要である。考察の中で「ふじみ野市まちづくりマップ」の利用を挙げたが、その手段として、デジタル化された地図をコンピュータで扱う技術であるGIS（Geographic Information System）の利用が考えられる。GISは、地理的な座標を持つ位置情報とそれらに関連づけられた属性情報から構成される空間情報を、コンピュータで可視化したり解析等を行うシステムであり、店舗情報等の配信やまちづくりの中でも利用

され始めている。近年、Web 上での利用が可能な Web-GIS へと技術が進展し、時間や場所に制限されることなく情報を参照することができるようになってきているため、ふじみ野市内の愛着対象を可視化して広く市民に提供することができ、ふじみ野市という「1つのまち」への愛着や関心を喚起させる手段として GIS の利用が考えられる。さらに、Web の双方向性を利用した地図上への情報登録も GIS では可能であり、これを利用した市民による地図上への地域情報の発信と共有によって「人と地域」をつなぐコミュニケーションツールとしての可能性も示されており（酒井・中山，2009），市民自ら愛着を感じるものや改善が必要であると感じるものを地図上に登録することで情報が蓄積され、それを参照した市民に共有されて愛着が高まるという効果が期待される。今後、このような効果を GIS が持ちうるかを実証的に検証していきたい。

GIS は、政府レベルにおいて普及の取り組みが行われており、主に GIS を利用する上での環境面の整備が行われているが、先に述べたような生活や地域活動での利用に関して、市民による自発的、継続的な GIS 利用を促進させる仕組みの検討が課題となってくるであろう。そこで筆者は、市民が活動等で GIS を利用するきっかけとして「地域への愛着」に注目している。GIS が利便性の高いツールであっても、その中で可視化される地域情報が市民にとって関心を持てるような情報でなければ、自発的、継続的な利用にはつながらない考える。市民に対して地域への関心を喚起させる情報の一つとして「愛着の持てる場」が考えられ、本研究での結果を愛着の基礎データとして、愛着と GIS 普及の関係を検討していく予定である。

最後に、本調査のアンケートで得られた回答者数は少なく、本研究の結果だけをもって一般化することは難しいと考える。今後はより多くの回答者から一般的な傾向を検討していくことが課題である。

参考文献

- 横野光聰・添田昌志・大野隆造（2001）．地域に関する情報が居住地への愛着形成に与える影響，日本建築学会大会学術講演梗概集，769-770.
- 中筋梢衣・榊原和彦・川口将武・檀上祐樹（2006）．大阪府大東市におけるまちへの「愛着」についての調査と分析，日本都市計画学会第4回関西支部研究発表会講演概要集，81-84.
- 酒井聡一・中山智晴（2009）．GIS の地域コミュニケーションツールとしての可能性に関する研究，文京学院大学人間学部研究紀要，第11巻1号，67-76.
- 鈴木春菜・藤井聡（2008）．地域愛着が地域への協力行動に及ぼす影響に関する研究，土木計画学研究・論文集 25-2 号，357-362.

謝辞

アンケートにご協力くださいました皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

（2010.10.6 受稿，2010.10.19 受理）

